



志を立て 未来を拓く 心豊かな生徒の育成

三刀屋中学校だより

令和4年9月

TEL 45-2421

体育祭

9月10日(土)に体育祭を実施しました。今年の体育祭のスローガンは「一つ上の『三中』へ ～誰もが主人公(スター)な体育祭～」。

このスローガンには「三刀屋中のよりよい進化」を体育祭でめざしていきたいという生徒会の思いが込められていました。また、副題にある「主人公(スター)」とは体育祭で星のように輝き、活躍する姿を表現し、限られた人だけが輝くのではなく、体育祭に参加するすべてのみなさんがスターとなる体育祭にしたいという思いも込められていました。

3年生は8月18日(木)から応援、デコ、衣装等の準備に取りかかりましたが、新型コロナウイルス感染症の第7波、35℃を超える連日の猛暑、そして台風による臨時休業と計画通りに準備が進まず大変だったと思います。しかし、生徒達は急な変更にも臨機応変に対応し、全員が一丸となって協力し体育祭を迎えることができました。当日は、雨で中断することがありましたが心配された熱中症もなく無事に終わることができました。

《御礼》

PTA 会長様をはじめ、副会長様、保体部、研修部の皆様にはテント設営や受付を手伝っていただきありがとうございました。また、自主的に体育祭後に残って片付けを手伝っていただいた保護者の皆様ありがとうございました。お陰様でスムーズに体育祭を運営することができました。今後とも三刀屋中学校の教育活動に対しまして、ご支援、ご協力をお願いいたします。



【青組の3年生】



【赤組の3年生】



【青組全員集合】



【赤組全員集合】



【1年リレー】



【2年リレー】



【3年リレー】



【レスキュー隊出動】



【私を落とさないでね！】



【緊急指令！】



【大玉ころがし】



【ディスタンス綱引き】



【色別対抗リレー】



【青組の応援】



【赤組の応援】

三刀屋高校の JRC の活動から学ぶ

3年生は、1年生時に「地域に生きる人たちに学び、地域の現状やよさを知る」として、雲南市の文化・産業・行政など様々な分野においてよさや現状を調べました。2年時には「地域の現状からその将来を考える」と題して雲南市が抱える課題を解決するための地域活性化策を、

修学旅行先の隠岐の島の取組等を参考にしながら雲南市に提案してきました。集大成となる3年生では「人のため、社会のために行動する」として職場体験学習を踏まえ地域のために自分たちができることを具体的に考え実践する活動を予定しています。そのため、実際に雲南市の活性化のために活動を行っている三刀屋高等学校の JRC の顧問である片岡教諭に 8月29日(火)に来ていただき JRC の活動の様子や失敗談、活動する上で大切なことを話していただきました。

片岡教諭は活動する上で大切なこととして「気づき 考え 実行する」ことを示され、「気づき」とは課題を見つける力、「考え」とは課題を解決するためにこれまでの知識や経験を元に思考する力、「実行する」とは考えたことを成功するために順序立てて段取りする力だと訴えられました。そして、この3つ力をつけることは学習にもつながり学校の成績も向上していき、次の目標に向けて意欲がわくことを教えてもらいました。加えて自分たちが考えた活動を成功させる秘訣として5W1H(なぜ、何を、いつ、どこで、誰が、どのようにする)を基本に考えて行動することが大切であること、若いうちは大いに失敗して、失敗から多くのことを学ぶことができ、次の活動に生かすことができることを教わりました。3年生は今後地域の方々の声を聞き、地域貢献策を作成し実行する予定ですので、三刀屋中学生が訪問した際には、地域で抱えている課題等を話していただきたいと思います。



【片岡教諭の授業】



【熱心に話を聞く生徒】

【生徒の感想】

- 「気づき、考え、実行する」を地域貢献活動で活用していく中で、自分の意見に対して他の人からどのような疑問が持たれるのかなど自分の意見を客観視する事が大事だと思いました。また、実際に行動に移してそこから自分で気づいた事、周りにその行動はどのような影響を与えているのかなどを、失敗を通して地域貢献活動で学んでいきたいと思います。そして、片岡さんが言われたように「自分にできることを探す」という身近だけど普段は気にしないような事を日常から探してみようと思いました。
- 大人や他の人に言われてから行動するのではなく、自分で考えて行動することが大切だということが分かりました。まずは、「気づき、考え、実行する」ことが大切で失敗することも何度もあるかもしれないけれど、自分が決めたことに成功できるまで続けることがいいということが分かりました。失敗したときには疑問を5W1Hにあてはめて解決するといいということが分かりました。
- できる限り失敗はしたくないから失敗しないようなことをしがちだけど、今日の片岡さんの話を聞いて失敗は全然悪い事じゃないことに気づかされました。もし、失敗したとしても繰り返し解決策を考えればいいということがよく分かりました。

少年の主張 雲南市大会

8月30日(火)に加茂中学校で第18回少年の主張 雲南市大会が開催されました。三刀屋中学校からは2年生の白築実結さんが学校代表として出場し



【熱弁する白築さん】

優良賞を受賞しました。白築さんは「自分は自分で生きていく」と題して、これからは多様性が求められる時代、これまでの価値観や固定観念にとらわれず、自分が自分らしく生活できる社会をつくりたい、周囲の人たちが自分らしく生活するための手助けを自分はしていきたいと訴えました。

《審査員からのコメント》

○自分が経験した、その時の思いがよく伝わる内容でした。ダイバーシティにあって、インクルーシブな社会として、社会が発展していくための大事な視点をもらった気がします。原稿を見ずに自分の思いや感情が乗った語りがあるとさらに良かったと思います。

○「自分は自分で生きていく」との思いのつまった主張で心に届きました。これまで支えられた家族・先生・友だちとの良い出会いによって「自分らしさ」を大切に生活され、自分自身も人の手助けをしたいと思われるようになったところに感動しました。誰もが住みやすい社会を一緒に作っていきましょう。



【表彰式の様子】

ふれあいタイム

三刀屋中学校では、毎週水曜日の朝の10分間「ふれあいタイム」をすることにしました。9月14日は3～4人で1グループをつくり、話し合いのためのお題を10の中から選びそれぞれが、そのお題について語り合ったり、つなげながら話し合いを深める「アドジャン」を行ないました。実施する上での約束事としては①「お願いします」、「ありがとうございました」の挨拶をする。②



【ふれあいタイムの様子】

相手の話をうなずきながら聞く。③指示をよく聞いて行動するの3つです。話し合いを通して相手とつながることによって安心感や自尊感情を高めソーシャルスキルを育成していく方法です。この方法は「ソーシャルスキルトレーニング」というコミュニケーション能力を育てる方法の1つで、お互いを尊重しながら率直に自己表現できることを目指します。

2学期は、1ヶ月ごとにグループを替えて実施し、3学期はクラスを解体して学年全体でグループを組む、来年度以降は、2学期から縦割り班のグループも検討していきたいと考えています。